



特集

公共トイレを清掃する作業者の性別に関する意識調査《中間報告》

新連載

リ・プロダクツ

毎月1,500台以上のロボットが稼働!
「おそうじレンタル」で実践する清掃DX

新連載

クリーンクリエイターズラボ 稲森 聡
そこが知りたい!
ケミカル管理のサイエンス

毎月1,500台以上のロボットが稼働！ 「おそうじレンタル」で実践する清掃DX

「清掃を通じて快適空間をクリエイティブする」を経営方針としているリ・プロダクツは、人とITの融合で施設管理の課題解決を目指し、お掃除ロボットを中心とした「おそうじレンタル」のサービスを確立。同社の高奥社長が旗振り役となっている「清掃DX」の取り組みとその実態取材した。

取材協力・写真提供＝リ・プロダクツ株式会社 取材・文＝比地岡貴世（編集長）

「清掃ポリシー」の公開

毎年9月24日は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が施行されたことで、「清掃の日」と制定されている。今年のこの日、清掃資材の販売・製造および清掃サービスを提供するリ・プロダクツ株式会社（滋賀県大津市）は、「清掃ポリシー」を公開した（資料1）。高奥要輔社長は、「当社の清掃に対する姿勢を明文化したもの」と話す。

同社は、清掃ロボットを用いた実作業に加えて、点検業務、清掃結果などをクラウドで管理する「維持クラウド」というものを自社開発するなど、清掃DXを推進。また、こうした知見から「おそうじレンタル」という清掃ロボットのレンタル事業も展開し、「快適空間をクリエイティブする会社」として、お客様の想いを共に実現することを使命としている。

そもそも、DXとは何か——。本誌でも幾度かにわたって関連記事を掲載してきたが、忘れてはいけないのは、デジタル技術を活用しながら業務変革を行うこと。つまり、社内

【資料1】清掃ポリシー — 私たちが大事にする3つのテーマ—

- 1. 清掃仕様を順守し必ず実行します**
▶リ・プロダクツでは、お客様の施設を綺麗に・快適な空間にするため、既存の清掃作業や清掃用品を定期的に見直し、より効率的・効果的な環境を整備し実行します。さらに環境にやさしい清掃方法も常に模索し、施設や建物の“キレイ”を保ちます。
- 2. 快適空間を創るための技術や清掃機器を研究し続けます**
▶お掃除ロボットや業務用マットを始めとした掃除用品のレンタルサービスも実施しています。特に掃除ロボットや床洗浄ロボットについては、自社の清掃現場などでの検証を経て取り扱いラインナップに加えているため、満足度高くご利用いただけます。他にも、あらゆる水/油漏れに対応可能な自社製品「すいとリーな」を始め、エコ商品の「モップ替糸」では、資源を再利用した製品の製造も行っています。引き続き快適空間を創るための技術や清掃機器を研究し続けます。
- 3. 現場の声を大切にします**
▶現場スタッフの気付きやお客様の声を取り入れやすい体制を構築しています。これまで以上にお客様のご要望にお応えできるようサービス改善を行います。

のみならず顧客に向けて新たな価値を生み出していくことがDXとなる。リ・プロダクツの取り組みから、清掃業におけるDXの真髄とも言い切れる、その一端を覗き見た。

ロボット化にける想い

リ・プロダクツの創業は1973年に遡る。清掃用品の販売店としてキャリアをスタートさせ、その16

年後に清掃サービスを開始。現在の社名に改名したのは2006年のころ。「RE」には、

◎REMAKE——作り直す
清掃には、作り直す工程が不可欠です。例えば、カーペットの張替えや、床のワックスを新しいものに塗り替えるなど、お客様に快適な空間を提供するため、適材適所を見極めながら、施設の作り直しを

行います。
◎REFRESH——新たに作る
お客様の施設を綺麗に、快適な空間にするため、清掃により「リフレッシュ」します。
◎RECYCLE——再利用
エコ商品の「モップ替糸」を始め、資源の再利用に努めています。
◎RENT——レンタル
お掃除ロボットや業務用マットを始めとした、掃除用品のレンタルサービスも実施しています

以上のようなダブルミーニングが込められており、現在のサービス内容を示唆するものとなっている。

こうしたユニークな取り組みの数々は、高奥社長の経営手腕と「とにかく新しいものが好き」という強い好奇心から生まれているという。象徴的なのが、2016年からスタートさせた清掃ロボットの取り組みである。

「これからロボットに切り替わっていくということが目に見えていたので、それならば『ロボットをうまく使える清掃会社になろう』と思ったんです」

その言葉通り、家電量販店でお掃除ロボットを片っ端から購入し、現場でテストしたという。2018年には、ソフトバンクロボティクスからリリースされた自立走行式スクラパー「RS26 powered by BrainOS」を5台購入し、翌年にも5台を追加した。

「RS26は、自律走行がダメでも少し高価な搭乗式の自動床洗浄機として使うことができますから、そこは割り切って考えていました」

ショッピングモールなどで実証実験を繰り返し、セキュリティとの関係、現場にある扉、段差との兼ね合



数多くの清掃ロボットを導入し、検証してきた高奥社長。「おそうじレンタル」では、小型の清掃ロボットのラインナップを揃え（写真上）、自社運用では大型の床洗浄ロボット「KIRA B 50」などを用いて清掃にあたっている（写真右）

い、動かす時間帯など、清掃ロボットの最適解を模索した。導きだしたのは、1日に5,000m²を自律走行ができる現場を一つの指標とすることで、清掃ロボットにかけたランニングコストを回収しつつ、現場の負担を軽減することができるとうわかった。

こうした功績もあって、2019年4月にはソフトバンクロボティクスのAI清掃ロボット「Whiz」の「AI Clean パートナー」の契約を締結し、清掃現場で人とロボットが共存しながら清掃を行う環境の構築を目指した。

現在でもその勢いは止まらず、今年の7月にはケルヒャー ジャパンの床洗浄ロボット「KIRA B 50」を日本で初めて導入するなど、積極的なロボット運用の姿勢を見せている。



これまでにない選択肢を創出

前向きに清掃ロボットの運用に取り組むリ・プロダクツだが、進めていくなかで気がかりなことができる。